



ラプソディー・イン・ブルー

米国のジョージ・ガーシュウィン作曲のピアノ独奏と管弦楽のための音楽作品。ここではピアニスト・三船優子の3枚目のアルバムを紹介。三船氏は現在、京都市立芸術大学非常勤講師 (CD: ファンハウス、1996年発売)

学生時代、私の夢はアメリカに行くことだった。卒業後に ECFMG 資格があれば米国で臨床ができると聞き、早速受験し医学部門は通過。英語部門は TOEFL で上位数%以内のスコアを出し、同資格を取得できた。

その後米国で family practice residency で臨床を経験。日本と比較し、プログラムや環境、習慣、文化など驚くことばかりで、人生観が変わったといえよう。

面白いワークショップを思い出す。内科医 (Internist) と家庭医 (Family Physician) の違いは formal vs. casual、服装ならネクタイ vs. ジーンズ、酒ならワイン vs. ビール、音楽ならクラシック vs. ジャズという。

そのとき会場で George Gershwin 作曲の "Rhapsody In Blue" が流れていた。ジャズの語法による狂詩曲という意味合いだ。欧州のクラシックと米国のジャズを融合させた symphonic jazz として評価が高く、アメリカ的芸術音楽の代表格でもある。

この曲の雰囲気が大好きな私は練習を重

医学と音楽は同根の真善美

ね、第3回ヨーロッパ国際ピアノコンクール (EIPIC) in Japan (2012年) や日独国際親善ピアノコンサート (2013年)、ピティナ (PTNA, 2014) でも演奏することに。

また、秋田の国民文化祭 (2014年) の「アマチュアピアニストの祭典」でも華麗に弾きこなし、指の動きよりインタビューでの口の動きが滑らかと褒められた。

私の専門はプライマリ・ケア医学や糖質制限、音楽療法など。最近の世界家庭医学会 (WONCA) のテーマには Medicine & Art なども。歴史を紐解くと医学、音楽、宗教は同根で、目標は真善美かもしれない。

2017年5月、日本プライマリ・ケア連合学会第8回学術総会が高松で開催される。いろいろな意味で幅広い医療を包含し、心身の健康をめざしたいものである。

情報は <http://pianomed-mr.jp/> まで。

日本PC連合学会学術大会長 (2017)
板東 浩